

# 鉦子支部も初参加して、第6回ソフトボール大会盛大に開かる

(2回戦)	(2回戦)	(1回戦)	(1回戦)	(準決勝)	(2回戦)	(2回戦)	(1回戦)	(1回戦)			
館新 山小 0 4 2 7 1 1 0 7 1 0 コールド 4 19	幕津 田張 3 1 0 0 0 0 2 0 3 0 コールド 8 1	鉦新 子小 0 0 0 1 1 4 0 0 0 2 1 0 コールド 2 8	勝幕 浦張 4 4 0 0 0 1 0 8 5 4 コールド 9 17	B ブ ロ ク ク	蘇成 我田 0 0 0 0 0 0 1 1 0 5 3 0 コールド 3 6	佐蘇 倉我 0 1 0 0 0 0 0 4 0 0 0 0 コールド 0 5	千葉 成田 1 0 0 1 2 1 0 2 1 0 コールド 4 4	A ブ ロ ク ク	木更 津 2 0 1 0 1 0 0 1 0 0 コールド 8 4	本蘇 部我 2 2 0 1 4 2 0 4 0 3 0 2 コールド 6 14	千葉 木更 4 0 0 0 0 4 0 0 X コールド 8 4

今大会ツキまくっている成田支部対若手を中心とした強打の新小岩支部は、力が伯仲しているだけに好ゲームが展開された。

一回の表、成田が1点を先取すれば、その裏新小岩が返し、三回成田打順よく、一番成毛の左越えの三塁打、続いて綿貫の右前安打で一人生還、三番足立が左中間を破る三塁打と犠飛で計3点を追加し突きはなしたかに見えたが、新小岩も打順よく、一番松本の左前安打をかわぎりに追撃開始、四球を含めランナー二・三塁で五番山田の中前安打で2点を返し、1点差のまま六回を迎え、新小岩は小熊・堀・阿津と3連続安打でついに同点とした。

しかし、最終回、成田は八番永田の内野安打、二死後、二番・三番が中前安打で2点を追加した。新小岩も、四番関が中前に強打し六番今泉右前へ安打するも後続な

動労千葉サークル協主催、第六回秋季ソフトボール大会は、十月十五日、幕張電車区裏グラウンドと一本松グラウンドにおいて、組合員一八〇名、十二チームが参加し、盛大に開催された。

九時十五分から開会式が行われ、大岩スポ連会長の司会で、関川サークル協議長より、「第六回定期大会が成功裡のうちに終了し、むしろ一年間の方針が決定された。そして、何よりも新たに待ちに待った鉦子支部チームがこの大会に参加し、本部を含め全十二チームが勢ぞろいしたことを全体で喜びたい。」とのあいさつがされ、続いて前回優勝の幕張支部の伊藤選手より力強い選手宣誓によって大会の幕が切れておとされた。

【Aブロック】では本部対蘇我戦で、本部が六点を挙げ精いっぱい奮闘したが、結局予想通りコールド負け。二回戦、成田対千葉転の試合は、双方ゆずらず4対4のままジャンケンにもつれ込み、前半は千葉転が4対1でリードしていたが、成田が逆転し辛勝した。蘇我は小支部でありながらよく健闘し準決勝まで進出したのは見事であった。

【Bブロック】では、新小岩が、一回戦では館山に対し猛打を爆発させ大勝し、続く準決勝の対幕張戦では逆転に成功し、くい下る幕張を振り切った迫力ある試合を展開し注目をあびた。

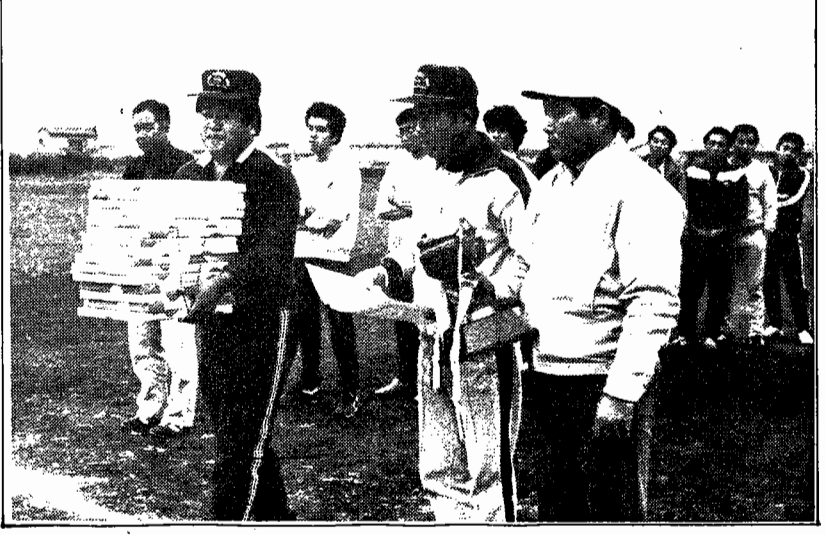
(準決勝)

幕張	3 0 0 0 1 0
新小岩	2 0 1 2 0 X
成田	5 4

成田・新小岩 白熱の決勝戦

## 成田支部、堂々優勝、準優勝は新小岩支部

賞品ドッサリ……優勝の成田支部チーム。表彰状をうけとる日暮婦長



成田に栄冠が輝やいた。

成田	1 0 3 0 0 0 2
新小岩	1 0 2 0 0 1 0
成田	4 6

- 成績
- 優勝 成田支部
  - 準優勝 新小岩支部
  - 第三位 蘇我支部・幕張支部
  - 最優秀賞 綿貫選手(成田)
  - 敢闘賞 永田選手(成田)
  - 阿津選手(新小岩)



# 日刊動労千葉

81.10.16  
No.870

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)四三二二七二〇七